第２回県都デザイン懇話会　概要

日　時　　平成２４年７月６日（金）１４：００～１６：４０
場　所　　国際交流会館　特別会議室

１　あいさつ

・西川 福井県知事
・東村 福井市長

２　議　事

＜資料説明＞
・事務局（資料１～３）

＜意見交換＞
（１）城址と中央公園のリ・デザイン

（吉田委員）
・元々、福井藩の殿様の住居・御座所は本丸にあったが、吉江藩から昌親が入ったとき西三の丸に初めて御座所を作り、以降、歴代、西三の丸が御座所になった。
・その後 14 代目の斉承が本丸に立派な御殿を作り、一時御座所としたが、春嶽の時代は財政再建が最大の課題だったので、心機一転、元の西三の丸御座所に入ったと言われている。春嶽が御座所としていたのは、安政５年（1858 年）に隠居するまで。最後の御座所の主人は茂昭。
・明治になり藩庁を西武百貨店の近くに移すが、御座所の建物を移築したという記事があり、このあたりで建物そのものが壊された可能性もある。
・明治 28 年（1895 年）に元の御座所のところに松平家の建物ができ、昭和 15 年、順化小学校が片町から移転する時に、お堀が埋められ、建物も順化小学校に引き継がれた。
・ここを掘れば御座所しかなかったので、出るとすればかなりきちんと出る。
・中央公園の真ん中の位置にお堀があったが、御本丸を除くと、西三の丸は城の正面に近く、お堀が二重、三重に重なっていて、非常に防衛的に堅固なところで御座所にふさわしい。城郭の構造を知るうえでも、福井藩の歴史を知るうえでも、御座所跡を含む中央公園は重要な場所。

（勝木委員）
・中央公園と県民会館を壊したあたりが当面の対象区域だと思うが、2050 年のスパンで考えれば順化小学校から福井神社の一帯を含めた全体を考えて計画を立てた方が良い。そのためには、御座所の復元もそうだが、両側にある２つのお堀も上手くいけば、将来的に非常に良い復元ができるだろう。

（西村委員）
・周りには近代的な建物があり、役所の建て替えもあり、その関係を考えた時に、完全復元が良いのか、どうあるべきか、いろんな考え方があるだろう。

（国吉委員）
・県庁が移転するとしても、まだ 30～40 年先。最終的な姿でものをつくるというのも時間がかかる。いきなり恒久的なものを作るのはどうか。
・この場所が変わっていくことを皆が分かりあえるような場所をつくる。昔のお城周辺の模型があったり、市民が議論したり、歴史を勉強する場。あるいはお堀が見えて休憩できる場所として当面使う、そういうものにしたらどうか。

（西村座長）
・長期にわたる変化をイメージできるような場をつくる。アーバンデザインセンターみたいなものですね。

（下川委員）
・まちと歴史を考えた時に、一般的に保存・再生という考え方がある。福井の場合、保存すべきものが少ないので、御座所のように、掘り起こせば出てくる部分で福井のまちをアレンジしていくというのは筋が通っている。ただ、埋没した歴史を活用する時、歴史を再生したとしても、美術館の絵画のように陳列されるだけのものになってしまい、市民の生活と全く関わりがない場所にならないかが心配である。
・日常生活に近寄っていくような歴史的シーンとして芝原用水の活用を推薦したい。

（勝木委員）
・養浩館という立派な庭園があるが、本来ならば現在の１．５～２倍あったと思う。
・芝原用水まで含めて、全体の計画をして欲しい。それが 50 年後に花を開くことになると思う。

（小浦委員）
・市民が歴史に接する機会があるか分からないが、一緒に掘るとか、10 年、20 年間

を考えるプロジェクトと連携させて、ずっと一緒に考えるプログラムとして進める方法もあると思う。接する資源がないということなので、何か共演していくような遺跡の掘り方もあると思う。

（西村座長）
・かなり長期の問題だから、そこに至るまでのプロセスを上手くデザインしていくことも一緒に考えないといけない。将来のビジョンを上手く県民が共有することになるような仕掛けがある。城址中央公園だけでなく、養浩館、芝原用水もあり、もう少し広い範囲で考えられるという意見ですね。

（２）城址・公園周辺の街区の再編

（国吉委員）
・お堀周辺がもう少しクローズアップされるよう、公共施設等が変化していく際に、常にある工夫をしていくことが必要。青空駐車場となっているところなどに小さな広場をつくるなどして、お堀周辺をより魅力的な散策空間としていき、早く県庁に出ていって欲しいと思われるくらいになると良い。
・大事な玄関口である福井駅に降り立った時に、魅力的な空間が感じられるような場をつくっていく。公開空地のような小さな広場をつくっていく。そのかわりボーナスをあげますというシステムとあわせて、お堀に行く道に小さな広場が点在するという工夫を、建物を建てる時に考えていく。
・御本城橋を出た角のところの駐車場に建物が建つとビューが相当殺される。市や県が取得することも必要ではないか。
・駅前広場の北側も重要な場所で、お城への軸、大通りへの軸、その結節点が集まる。ＪＲの出口があると一番良いが、このあたりにアクティビティがある、人がここに立ち寄る機能を持たせれば、必然的にこちらへの視点が出てくる。そういう仕掛けを打てないか。
・市長から交流人口を増やしていくという話があったが、観光地を見るだけでなく、まちなかで楽しむというのも今後の交流観光。その場合、建物の１、２階をオープンにしたり、人が佇むような作り方をしていくことを、街区のあちこちで工夫していくことをガイドラインとかで示し、作った時には何か支援することが必要。
・全ての道を同じ表情にする必要はない。通りごとの表情をきちんと持つ方が、逆に街区がクローズアップされる。全て歴史的表現をするのは市民の方も受け入れがたいし、歴史的な主張をするところとモダンなところがあったりと、通りごとの表情の作り方を大きな議論の中で選んでいく必要がある。

・県と市が合同して、個々のデザインを、抑えるべき部分は抑えてもらうとか、調整する取り組みなど、ソフトの仕組みづくりも必要。

（西村委員）
・お堀の周りは行政の建物が多く、１階のアクティビティが全く閉じられている。通りに面したところだけでもオープンになっていくと、随分、状況が違う。
・福井の特色として、お城の周りが割り合い歩ける。かなりの城下町のお城の周りは、堀端通りという大きな通りが通っていることが多く、逆にゆっくりと歩けない。福井の場合は、大きな通りがお堀に面していないので、ここを逆手にとって、歩くことを上手く誘発する戦略を創れば面白いだろうし、工夫の余地がある。
・最後に提案していただいた、ハードをコントロールするソフトの仕組みを一緒につくったら良いと。県と市が協調できるのは良い。

（吉田委員）
・県庁が今の場所に移ったのが、この地域の開発につながった。そういう点では、この地域は市の中でも開発の遅れた地域。規制していくのではなく、元の形を取り戻すということだと思う。順化小学校まで含めた地域でという話もあったが、共通理解がされれば、そういう話も進んでいくだろう。

（国吉委員）
・過去の官庁街の固さを解き放っていく必要があるし、通りごとの変化を出すとか、本来の機能以外にも、これからのまちを楽しくする、若い人を引き寄せるような機能も誘導していく。誘導することで、新たなものを創っていくという方向も付加したらどうか。

（八木委員）
・このエリアには企業もたくさんあるので、そこをどうするかも非常に大事。ビルごとに寿命があるので、一つ一つ把握しておいて、例えばゾーニングを作ってシェアビルディングみたいな形にしていくとか、一企業単位の負担を減らしていくようにやっていくことも必要。

（３）貴重な歴史資源の保全・活用

（下川委員）
・中心部には福井城址や養浩館など歴史的な資源もあるが、生活している人たちに絡

みがない。どういう風に人々が歴史遺産と付き合っていくかがポイントになる。芝原用水は足も手もつけることもできない。そういう歴史資源の使い方しかできていない。それをどう日常生活レベルに、歴史資源を落とし込んでいくのかということが、歴史を活用したまちの作り方だと考えている。

・芝原用水の利用を提案すると、足をつけるとか、植物に水を与えるとか、イベントを開いて楽しむとか、そういう歴史との付き合い方が市民レベルでできるようになれば、自ずと市民の方から守っていきたいという意識に変わっていく。そうすると新しい用水を中央公園に向かって引いても良いだろう。歴史的資源が点として置かれるのではなく、市民が日常生活レベルで利用できるものとしてまちが作られていくのがベスト。

（小浦委員）

・県庁所在地は城下町起源が多い。他の城下町では基本的な構造が残っているケースが多いが、福井の場合は戦災、震災で壊れて、広く区画整理をした結果、それが全然ない。本来の城下町ということを市民が感じる手がかりがものすごく薄いように見える。

・残っているものをどう使っていくかという時に、中心にあるお城はやっぱり大事なのかなと、聞きながら思った。共有する財産として城下町という歴史的な意味を使っていくならば、城下町ということを共有できるようなプログラムを、継続的にやっていく必要があるのではないかと感じた。

（勝木委員）

・福井市は、どこからか都市化に走りすぎた。とても良い旧町名がたくさんあるが、全部無くしてしまった。歴史を中心に発展的に福井を変えていった方が良いが、そのために旧町名を復活するというのが、今すぐにやらなければいけないこと。

・福井の通りはまち並みとなっていない。歯抜けになって通りの連続性がなくなった。浜町は、お城から足羽山、足羽川に通じるところとして、非常に大事なポイントであり、浜町通りを通りとして復活して欲しい。そこで一つのまち並みができれば、大きく福井の感じが変わってくると思う。

（西村座長）

・名称はとても大事。駅前を南北に走る道路は、せっかく百間堀のところにあるので、百間堀通りという名前にすれば、すごくイメージが湧くと思う。

・戦災復興も今や歴史なので、その部分をプラスに考えるのもあり得る。仙台は、今は杜の都というが、戦災復興で城下町とは関係ない。そういう意味で、あれだけ見事な通りができるわけなので、こちらの通りだって並木道が素晴らしく出来上がれ

ば見事な杜の都になる。
・中央大通りは戦災復興で、電車通りは戦前の駅前通り。その２つが重なって、三角形の街区ができている。昭和の始めの歴史と、昭和の後期の歴史で一つの駅前を作ったという意味でとても意味がある。このそれぞれの通りらしさをつくる。それは新しい都市の中で魅力的なものをつくっていくということになる。歴史を踏まえるということは、新しい歴史をつくることでもあるから、もう少し前向きに捉えても良い。

（小浦委員）
・場所の名前がもう少し意識できて、それがつながっていくということが重要。どこの町でも町名を失って場所が分からなくなっているところが多いので、もう一度復活させていく。今できることからやっていくことも大事。

（下川委員）
・歴史という言葉を使うと、生活からものすごくかけ離れたイメージが出てきてしまう。このエリアは「公園」という概念で考えると一気に生活と結びつくと思う。

（４）県都の玄関口の再設計、まちの顔となる空間の形成

（小浦委員）
・駅に立った時に何が見えるかを関西の城下町で調査したことがあるが、城郭が残っているところでもやはり見えない。最初の駅前通りは、まちと駅をつなぐようにできるが、その通りがどの向きにどうつながったかによって、お城の気配だとか、駅を降りた時のまちの気配が違う。
・福井はお城にすごく近いところに駅がある。見せ方や駅前の作り方によっては、お城の気配を見せたり、感じさせることができるが、今のところ、駅に降りると、視線が商業地の方にいってしまい、城址の方に行くという方向性が出ていない。全体を広く公園であると捉えるならば、駅前からその中にどうつないでいくか、やはり総合的に作り直していく必要があると思う。今動いているこの駅前広場について、どれだけうまく、どこに目標を置いて調整できるのかということが、今回の議論にとって非常に重要になってくる。
・どの通りを使って城址につなぐかも少し考えても良い。県庁線は緑や水につながっていく気配があって、城址から南側は商業的なところにつながる動線をつくっていくということもあるかもしれない。地区全体で再構築するという議論もあっていいと思う。

（竹内委員）
・デンマークのオーフスという、人口も福井市と同じくらいの 24 万人くらいの都市の資料。滝のモニュメントを町の広場に作ったら評判が悪くて、なんとかならないかということで、一週間だけの緑のイベントをした。日頃は僅かな人出だったのが、たくさんの人が昼夜構わず集まってきた。是非、福井でもやって欲しい。
・福井駅によく人を迎えに行くが、「福井は自然豊かと思って来たが、駅を降りてもさっぱりその匂いがしない」と言われる。駅に降り立った時に自然の雰囲気が感じられないのはやはり寂しい。中央公園や城址周辺が緑いっぱいになるなら、城址に向かう道路をオーフスの例のようにしたらどうかと提案をしたい。

（勝木委員）
・駅前広場は再開発をすると、かなり広くなりすぎると思う。賑わいとか、憩いということを考えると、もう少し小さい方が良い。これからの人口構成を考えると、もう少し駅前広場の使用目的を小さくして、コンパクトにする、そして残った空間をどうするか考えた方が良いのではないか。
・駅前広場というのは時代とともに使用の方法が変わっていく。15 年、20 年スパンで変わることを想定しながら、あまり恒久的なものをつくらずに、少しずつ時の流れによって変えていくという方が良いのではないか。
・賑わいとか、躍動的なものが出てくるのは駅。しかし、ＪＲの駅舎はどこも変わらないので、駅前広場はすごく重要。駅に来たときに見える風景は福井のイメージアップにつながる。無味乾燥なコンクリートの広場にする必要はない。

（小浦委員）
・その時に車をどうするか。今はかなり車社会になっているが、これが変わる可能性はあるのか。交通手段とセットで広場を考えていくことは有り得るのでしょうか。

（勝木委員）
・感覚的に申し上げると、現状でマイカーは十分いける。バスは極端に減っているので、駅前広場にそんなにバスが来るはずがない。それとタクシーが 50、60 台も溜まっていることが、まちの景観にいいかどうか。そういう視点で全体を考えれば、もう少しコンパクトで躍動的な駅前ができる。

（開発委員）
・新幹線が来ると、観光の拠点としての駅も目的が重要になる。新幹線の主要な停車駅である福井駅から様々な場所に訪れていただくような、交通の結節点としての駅の機能が非常に重要になってくる。駅を降りてバスに乗る時に、ものすごく寂れた

停留所だと、誰も行きたくなくなる。やはりワクワク感が演出できるような場所としての機能が必要だと思う。

（勝木委員）
・都会の場合は、駐車場からバスが来て、駅前広場にバスが停まっていない。福井には周辺にいくらでも場所があり、そこに待機して時間になったら来れば良いし、東口はそうなっているため、バスは長時間駐車していないがお客が捌ける。西口もそうなるのではないか。その方が景観として良い。

（八木委員）
・歴史の見えるまちづくりというよりも、2050 年で考えると、我々が先祖であって、これから歴史を積み上げていくというスタンスが良い。一つの方策として、環境という問題がある。これから電気自動車になってくると思うが、歩行者のゾーン、自転車のゾーン、電気自動車のゾーンがあって、車輛のゾーンがある。そういうところを今から作り上げていくのも一つの考え方と思う。

（西村座長）
・新しいモビリティのあり方ですね。このまちは歩道も広いし、区画整理でインフラも整っており、自転車レーンがつくりやすい。雪は降るが自転車の可能性は高い。

（国吉委員）
・日本はＩＴ化が遅れていて、韓国はインターネットでタクシーの予約ができる。予約すると、タクシー会社から携帯にこのナンバーのタクシーが行きますと連絡が入る。このように制御する方法があれば、駅前の重要な所にタクシーがなくても、どこかにプールする場所があれば良い。こういう新しいシステムも、電気自動車も含めて先駆的にトライしてみるというのもあるかもしれない。

（西村座長）
・西口広場からの見え方で、個人のお店の看板がすごい。これが福井を降りたときのイメージを悪くしている。せめて看板くらいなんとかならないか。駅前広場ががんばっても、目の前がこの状態なので、是非うまく工夫していただきたい。

（小浦委員）
・駅前広場のこぶのようなところがすごく気になる。駅前広場への入り方もすごく変。中央大通りを挟んだ二つの街区があるが、この街区もちゃんと考えて、道の線形を整理して、広場の設計も一緒に整理すれば、変わるのではないか。

（西村座長）
・駅前を南北に走る通りは曲がっていて、他の通りとも鋭角で接している。問題はあるが、こういう道ができるというのは、まさに百間堀があったから。碁盤の目になっているまちにとって、あそこをうまく生かすのはすごく重要。そういう目で見ると、大事な資産で、違った発想が生まれてくるかもしれない。

（５）人や環境にやさしい交通ネットワーク

＜事務局資料説明＞福井市都市交通戦略

（西村座長）
・金沢、富山でもレンタサイクルができていて、非常に大きな可能性がある。金沢、富山で先行してやり始めたので、それをうまい具合に取り入れて、一番良い方法を考えていけるのではないか。

（勝木委員）
・交通体系については情報が不足している。ＪＲ福井駅、えち鉄、福鉄の乗降客数、バスはどうか、コミュニティバスはどうかなど、情報をもう少し正確に出していただいて、それに加えて、将来人口、新幹線の問題もある。今の福井市は、南北の基軸は鉄道、東西はバスという考え方で、それもいかがなものか。

（西村座長）
・次回は、そういうデータを用意してください。
・公共交通は公共の政策としてやる必要があるが、日本ではバスも鉄道も民間経営に任せている。一方、道路は公共と、非常にアンバランスになっているのが、日本の公共交通政策の大きな問題。欧米で成功しているところは、公共交通は基本的に行政がサポートするという姿勢がある。都心活性化の戦略の中に、公共交通機関の政策が組み入れられている。ここでは全部やりきれないので、そういうことを是非、政策としてきちんとやっていただきたい。
・ＬＲＴが今後導入されるということだが、駅前まで電車が来るかどうかまだ微妙なところと聞いたがどうか。

（小浦委員）
・ＬＲＴについては、福井市民がまちなかにやってくる、通勤などに使う、そういうイメージが前提か。

（東村市長）
・ＬＲＴは福井鉄道福武線のことですが、沿線上の方が、福井の高校へ通学したり、通勤したりという利用です。沿線のイベントへ行く時にも使われています。

（小浦委員）
・西村先生も生活の話をしていたが、議論の中で都心居住とか、まちなかに働いて住むというのは、今どんな状況になっているのか。

（東村市長）
・昔は中心部の人口密度が高かったのですが、城下町であったため一人ひとりの居住面積は非常に狭い状況でした。そのため郊外化が進み、市域が拡大しました。今は、中心部とドーナツの外側は高齢化率も非常に高く、人口も減少傾向にあり、ドーナツの部分は、高齢化率も低いという状況です。

（小浦委員）
・都心を考える時、外から来る人のことも大事ですが、ここでどう持続的に仕事をして住むのかという考えもいる。駅は外から来る人の玄関口であるけれど、同時に郊外から来る人の目的地でもある。もう少し戦略的にするのであれば、都市構造というか居住との関係も含めたシステムづくりを考えてもいいと思う。

（西村座長）
・田原町で福鉄とえちぜん鉄道が相互乗り入れする構想もありますね。北にもネットワークが広がる中で、ＬＲＴがうまく使えるかが重要で、ヨーロッパでは魅力的な電車が走っていることがセンスのある都市計画、まちづくりのシンボルになっている。日本でも富山はＬＲＴが絵になっていて、日本中が注目している。中心市街地の再生のシンボルという意味もあると思う。

（国吉委員）
・路面電車を駅前広場に伸ばす、伸ばさないの前に、魅力的なシナリオづくりをして実験して、これだったらどんどん使っていこうというムードが出てきて、賛成の方が増えていくような方向にできないかと思う。
・ブラジルのクリチバでは路線を分かりやすくネットワーク化して先進的にやっている。バスもやり方によっては手段として有効。デザインも広告などを入れないですっきりしておくべき。観光資源という事で考えると芸術的に見せるということもやった方が良い。

（西村座長）
・ソウルのバス政策を勉強して、参考にするのも重要。李明博大統領が市長の時に、バス路線を公営化して、デザイン統一、ＢＲＴ整備など、非常に大きく変わった。そういう情報も入れて、バスの再設計の情報を出していただけると良い。

（国吉委員）
・駅前広場については、歩行者が実際に歩ける部分を工夫できないかと思うので是非ご検討お願いします。

（竹内委員）
・高齢者にとって、公共交通はすごく大きな問題。福井の人はほとんど免許を持っているが、私の年代になるといつ免許を返すかという話題になる。小さなバスであれば、路地に近いところに路線をつくることもできるだろうし、デンマークのある町では、路線とバス停は決まっていても、電話をかけて連絡しておくと、バス停とバス停の中間でも停まってくれる。そういうシステムなど、生活に密着した、生活が少しでも楽になるような運行を考えるだけでも、利用する人たちは随分変わると思う。

（西村座長）
・今は車中心で、車ばかり便利になっているが、いつまで車に乗れるかという問題もあるので、きちんとバスを使えるようにすると良い。

（越智特命幹）
・補足させていただきます。路面電車につきましては、新型のＬＲＶ（超低床車両）を入れることに決まっておりまして、今年度、一台目が入ります。都市の風景的にも、バリアフリー的にもかなり良いものになると思います。

（勝木委員）
・ＬＲＴは良い方向だが、そういうことならば、より市民のための足にならないといけない。もしこれを大事に使うのであれば、東西を通さなければいけない。本当は十の字に丸が一番良い。できなくても十の字、東西を通さないと意味がない。福井市の計画では東西はバスということなので、もう一つ分からない。そこを総合的に考えて欲しい。

（西川知事）

・福井県は鉄道とかバスにすごくお金をかけています。特に鉄道会社が二つありますが、県と市で、10 年間で数十億円ずつ出していまして、こういう地域は日本にないと思います。それから市ではコミュニティバス、県では無料のフレンドリーバス、郊外のショッピングセンターで田舎の方に行くバスと連結するというシステムもあります。それと鉄道は是非とも、駅の広場に直入させ、かつ、えちぜん鉄道と福井鉄道との相互乗り入れ、場合によっては新しい軌道の延長とか、そういうところは課題であり、意味のあることと思っています。

（６）まちなかの自然の活用、緑や水を活かしたまちづくり

（竹内委員）

・出張から帰ると、足羽山の影、足羽川の桜が見える時が、ホッとする瞬間。友人たちに聞くと、毎日かなりの数の方が、朝５時からウォーキングしており、足羽山に集まってラジオ体操したりして帰るそうです。県外から人が来た時に、まずは福井市全体を見ていただこうと展望台にお連れする。こんなに近いところに、毎日使えるところがある。おもてなしにも使える場所があるというのは、とても幸せなことだと思う。

・里山は手を入れないと、どんどん荒れていって、大変なことになる。足羽山も大変な場所が出てきている。協力して下草刈りをするとか、きれいにするとかいうことが、桜の時期はあったと思うが、一年間継続してやって、自分たちの里山という意識を持って、大切な足羽川と足羽山を守っていけたらと思う。

（開発委員）

・浜町の住民、事業者としては、文化空間としてまだまだ未成熟の部分が多いと実感している。先般、西郷真理子さんを浜町に呼んで、勉強会をしてアドバイスをいただいた。福井の人が、憧れや誇りを持ち、実際に浜町に来るということを、もっと魅力的に感じる仕掛けづくりが必要とのことだった。

・フランスは農業国でブドウを作っていて、そのブドウでワインを作り、ワインを売るためにワインが似合うライフスタイルを決めて、国家としてプロモーションを行っている。だからチーズも売れていく。

・福井は米どころで、おいしい日本酒がたくさんある。そういう福井の食文化を合わせて、浜町のライフスタイルとして確立させ、全国的に発信すると面白いでのはないかとアドバイスをいただいた。大きなグランドデザインを描き、文化的な空間としていけるような取り組みを、今後していけたらと思っている。

・アートを育てるということも始めていく。小山登美夫さんという方に浜町に来ていただいており、小山さんを中心としたアートの世界を浜町で実現できないかとやっており、こうしたことが成立していけば、文化空間としての位置付けが県民の方々にも分かっていただけると思う。そういう市民活動をきちっと位置付けるためにも、異人館とか時鐘楼とか、シンボリックなものがあると、より共感を持って、推進していく力になると思う。

（下川委員）
・足羽山、足羽川の自然を、まちなかにどう持っていくのかにとどまるのでなく、まちと自然をどうつなげるかという視点を抜いてはいけない。

（勝木委員）
・アジサイで有名なまちやお寺はたくさんあるが、アジサイは福井の花であるにも関わらず、全国的にアピールする場所もない。足羽山にアジサイをもっと植えて、アジサイの山にして欲しい。

（西村座長）
・言い足りなかったところは次の会に持ち越したいと思います。また、今日のご意見は、事務局と整理してお示ししたいと思います。